

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵税共五十錢)



和清山香  
校學市田縣野  
會門專上縣  
所刷印  
所行發  
所刷印

### 羊毛工業原料問題

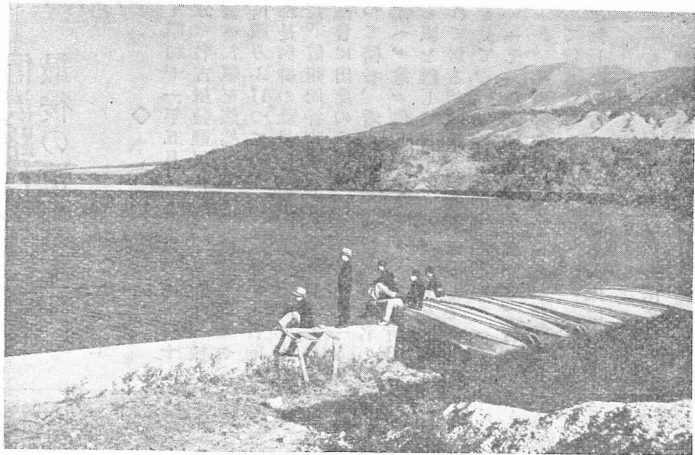
技術者の立場から

藤井爲五郎

濠洲に於ける人絹綿織物の邦品に對する高率關稅は、英國ランカンアの強敵日本に對する開戦の巨弾であり、日本としては新進羊毛工業への一服の清涼劑であらう。其間の消息については日々新聞の報ずる處、通商擁護法の發表された今日、多くを語る必要もなからう。

涼味

(新鹿澤温泉田代湖)  
上田市馬場町三井寫眞館撮影



約九割の原毛を濠洲に求めてゐた本邦羊毛工業が、報復手段の通商擁護法により濠洲よりの原毛を不買する將來を考へ、業者の困迷たる状態は、恰も蠶絲界に於ける絲價暴落にも似た感、相通する所がある。蠶絲界は滯貨生絲で悩み、羊毛界は原料問題で悩む。之は加工國である本邦羊毛工業の當然考慮し置くべき問題にて、然かも大戦當時は辛い經驗を嘗めた管の業界である。現在になつて悩むは業者として日頃の思慮の足らざりしを裏書するものである。

又一方、民衆として、毛織物に對する認識を高める事も大きな必要事項であらう。毛織物の輸入された當時、絹に對抗せんとし、モスリンに絹様な味を表現させるべくメリノの上等原毛を用ひた爲め、日本人は洋服地に對する觀念が、手觸の柔い、光澤のある物を望んで來たが、最近漸く其れに厭きて羊毛の味のある稍粗硬の厚い物を望む傾向を見、羊毛獨特の味がわかつて來た様である。例へばスポーツ、ツクス、セツトランド、スコッチ風の背廣地或はホームスパンの進出等が之れである。従つて太番の糸を用ひ必しも上等の羊毛のみを用ひる必要もなく、雜種毛使用の必要を感じる事になる。メリノを使用せず雜種毛

を使用する事が今後大きな役割を演じ、解決の一步を示し支那羊毛、滿洲羊毛の前途が喝望される事になるのである。現在あらゆる専門雜誌、新聞に濠洲問題原毛危機解決策として擧げられてゐる處を總括すると、

一、原毛の多方面購入策  
一、雜種羊毛の使用  
一、再生毛の使用  
一、他纖維との混紡交織  
一、滿鮮及内地に於ける綿羊の飼育

の五案が擧げられてゐる様である。原毛の多方面購入策は當然の策で、ドイツの採れる政策を見れば自ら判明するであらう。濠洲以外の國と言へば南阿、ニューギランドが主に擧げられ、南阿羊毛は最近喧しく言はれてゐるが此處とて英國の背景を有し、再び第二の濠洲問題を惹起する事が當然と考へられるものである。現今迄蒙古羊毛、支那羊毛を度外視して來た日本は民衆の前述の傾向に依つて雜種毛を要求し従つて蒙古支那羊毛の使用は當然起きて來よう。

滿洲、朝鮮に於ける羊の飼育は相當長年月を要する問題であるが、雜種毛等の使用により有望である。又朝鮮及内地に於けるホームスパンも、夫々の地に飼育する綿羊からする關係上大きな役割の一つであらう。

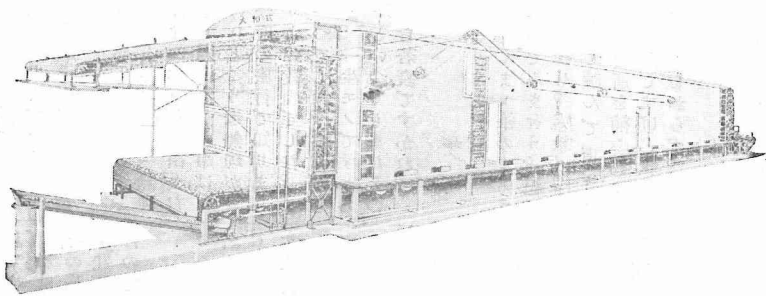
然し直接技術者として考ふるべき問題は、一、ボロの再生  
一、ステープルファイバー、絹、人絹、綿との交織並びに混紡

の二項であらう。前者は即ちノイル、ナツプ、ショツディ、ムンゴー等にしてノイル、ナツプは日本に於ては年約一千万封度の産出、毛ボロは二百四十五万乃至六百万封度と言はれてゐるが、日本に於ける年原毛使用高二億餘封度に及ぶ故洗上羊毛は歩留り割餘として換算し一億三、四千封度になる故少くとも五、六千万封度の毛は集められる筈である。其の紡毛により他國より輸入される原毛との混紡或はファイバーとの混紡による紡毛織の製造、之は現今迄餘り重要視されてゐなかつたが、により

解決の一路が見出される譯である。後者即ちステープル或は絹との混紡も現在迄産出された製品に就いて見るにステープルとの混紡は三〇―四〇%以内であれば稍理想的な混紡品を見る事がすべしに研究され、市場に出でゐる。一〇―二〇%の混紡であれば、餘程の人でないといふ別し得ない迄進歩を見せてゐる。絹との混紡も既に試験されて、昨秋大演習の折群馬縣の小學教員が着用と聞いた。絹混紡サリが同縣下で製織されたのを見るに勿論改良研究の餘地あるも眞の成果は甚大なるものと信ずる。又各地の試験場にて試験されしものも數多く実績を納めてゐる様である。交織品に到つては人絹は背廣地、セル、子供婦人服に盛んに應用せられ益々羊毛

### 現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機

【各種型錄贈呈】



二五九六年代表型

製作發賣元  
株式會社  
大和三光商會  
東京京橋區京橋三丁目二番地  
電話京橋(56)五三二〇番

營業課目  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動人絹乾燥機  
特許帶川三光式乾燥機  
特許やまこ式乾燥機  
特許サンコー式濾過淨水裝置  
特許サンコー式廢湯吸熱器  
特許サンコー式高壓ポンプ  
特許サンコー式トランプ

丹綾生

「毎度お噂に及聞申候國立公園を、我輩の座敷より眺め一入雄大の感に打たれ申候なり」とあつた。童心に返つた翁の魂は、しつくり雄大な自然に融合した。

◇

翁は脇に痼疾があつた。二十五日岡谷

議士)の、ホームに迎へてゐる姿を見て、車中から小供の様に喜び「芦田が来てゐるー!」と、手上げて歡聲を發した。下車した二人は堅く長い握手を交した。芦田博士は「ヲザハ キセキテキノ ゲンキダ」

在名古屋  
草野史郎

所まで行くものは誰もありま

れりや國際紛争の中心、外蒙古てす  
 スクです。最西端滿洲里驛一つ離  
 へ行つて國際紛争の中心、外蒙古てす  
 此の時自分といふものをハツキリとキヤ  
 ツチした事はありませんでした。よほど  
 の物好きか特別の用事がなければこんな  
 所まで行くものは誰もありません。「滿

大連の埠頭ば東洋一だといひます。全く大きいですね。船が港へ入ると何千といふ出迎への人々が手に旗、ハンカチ、幟など思ひ／＼のものを持つて合圖をし

一禮を置く石に二禮號(二〇三)  
どうです？句は拙いですけど、私はホ  
ントウに置く一つの石にも英靈が宿つて  
ゐるやうな氣がして一禮二禮を捧げま  
した。(つゞく)

上田便り

織物生産高 上田小縣境一市二郡五月中織物生産高は絹織物二千七百六十三點三萬四千七百七十七點九百五十四圓計五千七百九十二點三萬九千五百四十四圓前年同月比五百八十三點減百七十四圓を増した。之は生絹の重目物が需要旺んだつた爲めである。

管平青年講習所増築 管平青年講習所は一万四千圓の豫算で増築する事となり六月十日着工したが七月下旬竣工の豫定である。増築箇所は職員官舎二棟、堆肥舎一棟、收納舎一棟、水道設備、講師室等であるが更にスキー學校開設計畫遂行の爲め床下壁天井の防塞施設、窓及出入口の改造、浴槽建設を行ふ意向である云ふ。

五校水泳大會 長野工業、長野師範、屋代中學、野澤中學、上田中學の第十回五校水上競技定期戦は六月十四日上中諏訪形プールに舉行、當日は一點の曇なき真夏の如き好天氣に恵まれ十一種目に亘り大熱戦の結果上中六四、五點を獲得して優勝以下長師五〇、長四八、野中四四、五、屋中三三の順であつた。

春蘭四百萬圓増収豫想 春蘭出廻期を揮毫の爲め純(幅一尺二寸長さ二尺五寸位)四枚お預り置き候處依頼者名失念致し候に付き御心當りの方は何卒御申出で被下度候

針塚長太郎

蠶絲學雜誌(九卷一號)原稿募集

好景氣蠶絲業を目前に實際家も研究者も夫々の立場に於て收穫時に大童の事と拜察致します。執近々蠶絲學雜誌九卷一號を發行いたし度いと準備中です。就きましては是非共諸賢の玉稿を頂き度い次第です。長い論文でなくとも結構です。調査、資料、抄録等大歓迎です。原稿用紙は御一報次第御送りします。締切 七月末日 發行 八月下旬

蠶絲學雜誌編輯係

控へた縣下蠶家の収入見込につき縣蠶絲課にては調査中であるが縣調査に依る十一年度春蘭豫想收穫高は六月十五日現在に於て桑園の寒冷害等に依り前年の三百九十一萬三千六百二十圓に比し自蘭二百九十一萬六千五百五十七圓、貴蘭四十二萬四千九百九十九圓、前年比五十七萬七千七百七十七圓減、貴蘭は本縣で五圓四分八厘の減であるが、蘭價は本縣では五圓二角半平均となつてゐるので金額は増加し昨年の収入一千三百六十二萬圓に比し一千七百七十四萬圓となり四百萬圓からの増収を期待されてゐる。又夏蠶も同様の高値を豫想され増立は七月八日から十五日頃に行はれる見込であるが、春蘭の好景氣に煽られた蠶家は早くも増立増加の氣構へをなして來た。然し桑不足は全縣下に及んでゐるので蠶絲課では一時の景氣に幻惑され増立増加をなさざる様警告してゐる。

新興キネマのロケ 新興キネマ監督田中重雄及スター伏見信子、河津清三郎、田中春男外十餘名は小島政二郎原作報知新聞連載「薔薇なばら」のロケーションの爲め六月十五日來田滞在三日間の豫定で別所、田澤等の温泉街の情緒を描いて撮影した。

白根山眞田間ケール建設 草津硫黄株式會社では硫黄運搬の爲め白根山腹より上田温泉眞田間迄廿二哩のケールを工費六十萬圓を以て建設する事を六月十六日の總會で可決したが從來はトラックに依り眞田川に出し省線で新潟へ輸送してゐたものであるが、之をケールにて眞田に出し直ちに温泉より省線に至り新潟に出そうとするものである。之れに依つて噸當り二圓以上の利益があると云ふ。

然して上田温泉では商工會議所と協力し硫黄輸送の歸り空車に上田の物資を積込の草津温泉に供給せんと計畫を進めてゐる。

原蠶種好成绩 上田蠶試支場の本年度原蠶種は六月十七日を以つて二千噸分が上築完了するが新品種日八、支一七、歐一九、日一一、支一〇七は何れも成績良好で就中日八、歐一九兩品種は弱質性の上に三四齡期に低溫と桑の軟弱の爲め可成懸念されたが上築成績は良好であつた。上築經過は十二日十三日が支一〇七、平和、安泰、支一六、十四日が日八、支一七、十五日が日一一、歐一九、十七日が歐一六で尙交雜種も十七日に完全上築する豫定である。

坂城蘭絲初取引 本縣下のトップを切つて六月二十日開始された坂城蘭絲の初取引は高値五圓三十錢、安値四圓五十五錢、平均五圓七錢、掛日三十七半であつた。

ハイヤー割値上 上小自動車業組合ではガソリン及びタイヤ値上げに伴ひ賃金改正を行つたが大体一割の値上げで二十日から實施した。尙市内五十錢均一は從來の儘である。主なる區間は左の如くである。(何れも上田から)

從來		改正	
別所	一圓八十錢	二圓	
田澤	二圓	二圓二十錢	
青木	一圓六十錢	一圓八十錢	
新鹿澤	四圓五十錢	四圓八十錢	
菅平	三圓五十錢	不變	
福津	二圓	二圓二十錢	
暑さ眞夏以上 上田地方は六月廿二日朝來快晴で寒暖計はグン／＼上昇し蠶試上田支場の調査に依れば最高溫度は午後三時で卅五度八分(華氏九十六度)を示し前年同日の廿四度三分に比すれば十一度五分(華氏二十度)も高く眞夏にも餘りない暑さに何れも驚いてゐる。			
信濃、上田兩蘭絲の初取引 上小地方			

養蠶家が待望の信濃、上田兩蘭絲市場の初取引は六月廿二日(昨年は上田蘭絲十九日、信濃蘭絲廿日)一齊に開始したが取引狀況は左の如くで昨年より一圓以上の高値を示し養蠶家を狂喜せしめた。(括弧内は昨年)

信濃蘭絲		上田蘭絲	
最高	五圓八十一錢(四圓三十二錢)	最高	五圓六十九錢(四圓四十五錢)
最低	四圓八十八錢(三圓三十五錢)	最低	四圓四十錢(三圓三錢)
平均	五圓三十二錢(三圓八十七錢)	平均	五圓三十三錢(三圓九十三錢)
掛日	三九	掛日	三九
出廻	三八九五圓(三八六五圓)	出廻	一三五九圓(八四七圓)

上小地方蠶況 蠶取上田支所調査に依る上小地方六月廿五日現在春蠶狀況は桑は早天續きで伸長が止り降雨を待つ狀態桑葉價格は一時百圓廿六、七圓に暴騰し其後二十圓に下落したが夏蠶に振向け得るのも又廿五、六圓に騰り山間部は桑不足を見たが全般的には過不足無く蠶兒は大並は收購販賣中出盛期は廿七八日頃運搬は五圓五、六日で新品種日八支一〇七は一部に運搬があつたが全般的には良好で蠶組は更に嚴重なる驅除新築も空しく最近に至り發生多し昨年より被害多き見込で憂へられてゐる。夏秋蠶掃立は上田は前年の五萬三千六百餘グラムと大差なく小縣は前年百十四萬四千九百餘グラムより稍減少の見込である。

上小地方の春蘭爭奪戦 上小地方の春蘭爭奪戦は出盛期になつて愈々尖鋭化し蘭絲市場側は大製絲家に依り各方面に張廻された特約取引網を打破らうと加盟養蠶實行組合の幹部へ巧妙な手段で働き掛け特約大製絲家は市場高値の場合解約の惧れがあるので市場での積極的買入方針を避け特約の確保に躍起となり、共同

處理に乘出した浦里、青木等の各村に蘭員を派遣して物々しい仕入陣を敷く一方町村産業組合は生蘭共同販賣の輪旋に續々手を染め來つたので蠶業取締所上田支所では見本取引を避けしめ取引の公正を期し嚴重監視中である。

鐘紡上田工場引込線完成 上田驛より鐘紡上田工場に至る鐵道引込線は兼ねて工事の處此程完成したので廿五日鐵道省で機關車の試運轉を行つた。然して工場建築工事は七月の株主總會に報告を行つて直ちに取掛る段取りで人絹交織の既定計畫の外毛織人造織機織工場設置も目論見がなされ菅平に於て綿羊飼育計畫されてゐる。

美ヶ原團體三割引 丸子鐵道會社にては六月廿五日より九月末日迄に美ヶ原行團體五人以上には同社線各驛より三割引を行ふ事に決定した。

菅平道改修 小縣郡長村縣道土合菅平線改修工事の内菅平部落入口から菅平ホテル迄二百間幅員三間の工事は近く着工する事に決定之が完成すれば冬期間と雖も菅平迄バスが運轉され大体に於て交通が完備するのである。

稚蠶共同飼育場設置 十一年度稚蠶共同飼育場設置は縣蠶業課で申請し組合につき嚴選の結果五ヶ所に設置と決定、計六千七百五十圓の獎勵金を交付する事となつたが上小關係は中田村中野第一養蠶實行組合、滋野村井子養蠶實行組合の二個所で敷地は各百坪の豫定で近く建築開始される筈である。

天神町裏の縣道九月から着工 上田橋を北へ直行南天神町裏を通り鐵道ガードを経て祝町から舊松尾町交番に出る新設縣道は市工務課が最近設計を行つて縣へ報告したが着工は九月頃の豫定である。總工費十七萬圓、總延長七百米中南天神裏通り四百四十米は幅員八間、祝町通り二百六十米は幅員十間の三ヶ年繼續工事とし本年度は支障物なき南天神裏鐵道附近施行の豫定である。



母 校 ニ ュ ー ス

野球大會に専交優勝 上田毎日新聞

主催野球大會は六月七日市営球場及び小學校本校々庭の二個所に於て舉行、參加チームは専交會、裁判所、温電、上田、信用組合、小縣聯合事務所、小島鐵工所、神村役場、信電上田支店の九チームに達し、母校の組織する専交俱樂部は優勝に於て信用組合を五對四に破つて優勝した。チームのメンバー及スコアは左の通り。

井田(谷川山田木田)井澤(井田)上今(納市土三青柴)瀧(今關山)

(投)捕(一)三(遊)左(中)右(補)

専交 0 1 1 0 0 0 2 0 1 5  
信組 1 2 3 4 5 6 7 8 9 計 4

紡織科の實習 紡織科三年及二年は授業は六月廿七日迄で七月一日より七月一日から暑中休暇となる。

紡織科一年生は授業は三十日迄で七月一日より十四日迄製絲及撥絲實習十五日から暑中休暇となる。

上田の日蝕 六月十九日の日蝕は上田では午後二時十六分太陽の右下より虧け始め食甚は三時三十分で食分は七分八厘復元は四時廿六分で食甚の時は陽は薄れて四邊は白く見え涼しくなつた。食甚迄は晴れてよく見えたが復元は雲に邪魔されて見えなかつた。上田では宮島天文臺の外中學校、小學校等望遠鏡を据えて觀測し母校でも物理學教室は原田教授以下總動員で職員テニスコートに望遠鏡を据えて觀測し日射計にて直射日光のエネルギーの強さを測量した。

蒲生教授學位授與發表 母校教授蒲生俊興氏(蠶)の論文「蠶血組織の發生並に機能に關する研究」は東京帝大教授會をパスし農學博士の學位を授與せらるる事に決定する旨既報せるが愈々六月三日附を以て學位授與認可が正式發表された。

蒲生氏授與祝賀會 母校教授蒲生俊興氏は六月三日附を以て農學博士の學位を授與されたので母校に於ける祝賀會を六月十三日午後六時より市内麻栗町總宜亭に於て開催した。出席者は母校職員卒業生の殆んど全部四十八名、學校長

の挨拶、蒲生新博士の謝辭があつて宴に入つた。一同歡を盡して八時頃井上教授指名、阿形講師發聲にて万歳を三唱して散會した。

窪田助教内地研究員を命ぜらる 母校製絲科助教窪田潤氏は三月間文部省内地研究員を命ぜられ七月一日より八月廿八日迄東京工業大學、八月廿九日より九月四日迄横濱生絲検査所、九月五日より九月三十日迄東京工業大學に於て研究せらるる事となつた。

紡織科實習懇談會 紡織科では六月八日午後二時より會議室に於て校外實習に關する懇談會を開催、學生課、紡織科職員紡織二三年生出席し職員より實習に關する注意、三年生より二年生に對し經驗談及注意、學生より職員への質問注文等があつた。

紡織科職員對三年生野球試合 六月十三日午後二時より母校々庭に於て紡織科職員對三年生(選手を除く)の軟式野球試合を行ひ學生側は第一回に大量得点をなし職員側追撃の勢で勝敗逆轉し難きものがあつたが矢張最初の一點が物を云ひ五對六のスコアを以て學生側の辛勝する處となつた。點數の餘り大きくならぬ處は堂々たるもの。兩チームのメンバー及スコアを示せば左の通り。

三年軍 4 0 0 0 1 1 A  
職員軍 0 0 2 2 1 0 0 5 計 A6

三年軍 澤澤崎藤澤芳良澤岡  
瀧北岩佐久千柳諸  
(投)捕(一)三(遊)左(中)右  
(補)原(富澤井)寛(日林山)高橋  
職員軍 湯清中玉清野小香岡(高橋)

實砲射撃 六月十四日(日曜日)市営射撃場に於て學生有志の實砲射撃實施、幸ひ好天に恵まれ午前九時開始午後一時無事終了、出席人員五十二名、成績優秀者左記の通りである。(一人五發五十點満點)

三十九點 糸二 永井 千治  
三十五點 糸一 高野 憲三  
製絲科職員對紡織科職員庭球試合 六月二十日午後二時より母校コートを以て製絲科職員對紡織科職員の庭球試合を行つた。紡織側は昨年五對〇で大勝してゐるので調子を降して飛車一丁清水氏をはずしにメンバーを作りたるに對し製絲側は例に

依り女子軍を加へた混成旅團と云ふ譯である。清水氏が抜けたせいでもあるまいが前回より少々骨が折れ結局二組を残して紡織側が勝つた。戦績左の通りである。

第一回戦 (點線は女子軍)  
製 絲 紡 織  
黒澤 林 三 〇 岡 野口  
片岡(金)山上 三 〇 小林 小松  
鷹野片岡(綾)三 〇 香山 高橋  
原 山崎 〇 三石倉 玉井  
深町 岡田 〇 三湯原 櫻井

第二回戦  
黒澤 林 二 三 三石倉 玉井  
鷹野片岡(綾)一 三湯原 櫻井  
片岡(金)山上 〇 三石倉 玉井  
製絲科二年校外實習 六月二十二日より七月十九日に至る四週間各所に依頼し校外實習をなす。實習先及學生氏名は別記の如くである。

乾繭實習 製絲一年生は六月二十四日より晝夜交代で三晝夜、引續き二十七日より矢張り晝夜交代で三晝夜春繭乾燥實習を行つた。

蠶一見學旅行 養蠶科一年生廿八名は六月廿八、九兩日に涉り倉澤教授及小林副手引率の下に長野、松本方面の見學旅行を行つた。視察場所は長野縣蠶業試験場JONK、測候所、有明村天祥蠶飼育林等であるが雨に降られて困つたらしい(寫眞は今開始せる有明村母校天祥蠶飼育林)



蠶三卒業製作教室所屬決定 養蠶科三年生の卒業製作實驗の教室及人員は左の如く決定した。

遠藤教授……兒玉新一、原利夫、芳谷富雄、丸山保夫  
井上教授……多田忠正、辻義男  
佐藤(利)教授……有間正久、桂元三、小柳源一、玉田城三郎、原田正次、横内一郎  
佐藤(春)教授……鈴木俊夫、戸塚一、宮下弘、本居高行  
蒲生教授……加藤沼二、堀口稻三、殷金子教授……望月藤夫、星野莊次  
倉澤教授……武井仙太郎、植村清義  
山口助教……二木三雄、馬場順一、佐藤雪雄  
須田助教……小木曾眞佐雄、齋藤修一

蠶二の校外實習 養蠶科二年生は、七月一日乃至八月一日より廿五日間各地の蠶業試驗場、蠶種會社等に於て校外實習を行ふ。實習先及學生氏名は別記の如くである。

教婦養成科校外實習 教婦養成科二年生は七月二十日より三週間各工場に依頼し校外實習を行ふ。實習工場及生徒氏名は別記の如くである。

叙 任 辭 令

母校之部  
六月六日(學校)  
副 手 白井 美明

願ニ依り副手ヲ免ス  
六月十五日  
正八位 石井 清司

敘從七位  
六月三十日(文部省)  
七級停下賜 教授 清水 寛孝  
八級停下賜 全 林 貞三  
九級停下賜 全 倉澤 美徳  
給四級俸 助教 野口新太郎  
給六級俸 書記 春原良太郎  
給三級俸 助手 内藤 榮吉

舊職員之部  
東京帝國大學教授 川瀬惣次郎  
賜本俸七級俸(六月十八日)  
卒業生之部  
公立實業學校教授 中根 眞一  
七級停下賜 但當年俸千五百  
五拾圓支給

蠶三採種實習 養蠶科三年生は七月一日より採種實習を開始約二週間にて終了する豫定である。

絲一養蠶實習開始 製絲科一年生養蠶實習は七月一日より開始、指導教官は宮坂講師小林副手、手塚副手にして四日掃立飼育品種は日一一×支一〇七、日一一〇×支一〇六、日一一×支一〇七、飼育量一人當一五半、人員は廿八名である。

教婦養成科校外實習 教婦養成科二年生は七月二十日より三週間各工場に依頼し校外實習を行ふ。實習工場及生徒氏名は別記の如くである。

敘正六位 從六位 芝 荒雄  
正七位 門平潤一郎  
全 小林 繁  
敘從六位 從七位 鹽見 豊一  
全 南澤 清

敘正七位(以上六月十五日)  
地方農林技師 稻田 實  
長野縣農林技師ニ補ス(六月二十六日)  
朝鮮公立實業學校教諭 從六位 小笠原安重  
任朝鮮公立實業學校長兼朝鮮公立實業學校教諭 農林技師 上野 榮仁

六級停下賜(以上六月三十日)  
一、前橋市匿名組合交水社は此度廢業し株式會社交水社資本金壹百萬圓として新に設立免許され、岡田金次郎氏社長に就任す、尙會員岡田彌平氏(絲三)は取締役に會員小山清氏(絲一)は監査役に就任された。

一、會員合田信一氏(絲一)は此度新潟縣村松越後片倉製絲株式會社工場長として榮轉された。

石川 柳澤 吉崎 磯崎 山崎 飯森 中條 吳 北澤 藤田 藤森 黒澤 柳澤 關村 峯村 波邊 深田 松田 保科 宮下

氏 名

と き わ 老 子 敏 子 八 千 代 貴 子 君 子 ぶ じ 子 壽 喜 子 豊 子 芳 子 き 子 豊 子 老 子 富 子

本會日誌

の御遺族に對し有志財金贈呈す。  
七月一日 養蠶科第一學年生見學旅行のため松本市へ出張に付安筑支會長へ禮  
狀發す。

**支會通信**

**水野支會長を送るの記**

紐育の千曲會員は現在五名にして時々  
例會を開いて學生々活の事や、工場生活  
の思ひ出、ゴルフの自慢話、さてはあち  
らとこちらの女性の比較優劣論等々話は

水野支會長を送るの記

紐育の千曲會員は現在五名にして時々例會を開いて學生々活の事や、工場生活の思ひ出、ゴルフの自慢話、さてはあちらとこちらの女性の比較優劣論等々話は

（六月五日）  
現在

昭和十一年度通常會費納入者

若林 榮(蠶九) ○梶田 陞(蠶九)  
 香掛 野 功(蠶九) ○松野 外史(蠶九)  
 ○吉田太郎(蠶九) ○岡本 正男(蠶九)  
 瀨富正廣(蠶九) ○遠山 正人(蠶九)  
 ○小林輝夫(蠶九) ○山崎 勝巳(蠶九)  
 石原滿州夫(蠶九) 蓮沼 光治(蠶九)  
 ○中島正喜(蠶九) ○林 正悟(蠶九)  
 秋山俊雄(蠶九) ○新野 元治郎(蠶九)  
 ○牧島章吾(蠶九) ○淺川 茂樹(蠶九)  
 岡島龜治(蠶九) ○青木 深(蠶九)  
 小島 敏(蠶九) ○藤井 宗雄(蠶九)  
 ○渡邊源次(蠶九) ○田中 三郎(蠶九)  
 ○田中一男(絲一) ○一志 藏人(絲一)  
 土岐宣治(絲一) ○山本 薫(絲二)  
 大築泰平(絲二) ○高橋儀三郎(絲四)  
 鈴木泰市(絲四) 横田 三平(絲四)  
 ○橋本景吉(絲四) ○伊藤 清(絲五)  
 栗原保定(絲七) 高橋 安雄(絲七)  
 渡部 亘(絲七) ○月田 耕三(絲七)  
 ○甲田勝衛(絲七) ○池田忠治郎(絲七)  
 梅澤万治郎(絲七) 石塚浪之助(絲七)  
 北村中太郎(絲七) 飯島 輝雄(絲八)  
 小宮山太助(絲八) ○鈴木 教吾(絲八)  
 ○尾澤義嗣(絲八) 荻野 俊一(絲八)  
 大塚重藏(絲八) 森倉 重敬(絲九)  
 大谷 勇(絲九) 湯澤 重雄(絲十)  
 ○小山俊吾(絲十) 清水 重雄(絲十)  
 小山雅夫(絲十) 恒川 芳保(絲十)  
 荒井 猛(絲十) 石濱 正巳(絲十)  
 新庄哲二郎(絲十) 牧野 弘(絲十)  
 ○柳澤忠次(絲十) ○山本奈良三郎(絲十)  
 石井謙三(絲十) 和田 晋(絲十)  
 多勢龜次(絲十) ○本橋万三郎(絲十)  
 ○岩根恒德(絲十) ○高橋 誠(絲十)  
 ○相澤伸司(絲十) 村田 階宣(絲十)  
 畠山茂忠太(絲十) 手塚 政吾(絲十)  
 土岐茂次(絲十) 頼本 啓一(絲十)  
 ○則信忠夫(絲十) 野尻 白二(絲十)  
 小口兼男(絲十) ○三谷 勝(絲十)  
 五小太郎(絲十) 長谷川洋治(絲十)  
 ○笠島金治郎(絲十) 栗野慎一郎(絲十)  
 ○田尻恒治(絲十) ○矢島隆之助(絲十)

泉の様に止め度なく騒々しい紙育生活を暫し忘れて樂しい談笑の裡に時を過すのが常である。

今回支會會長水野健吉氏は故國に榮轉歸朝せらるゝに付き四月十日一同市内太陽亭に於て、送別晚餐會を開き併せて役員の改選を行つた。

新支會會長 有賀 康人氏  
副支會會長 若林 清氏

こゝに當支會の面々のプロフィールを述べる。

水野健吉氏（第二回（三井物産）  
米國仕込のスマートなジェントルマン

で趣味の廣い人、ステツディなゴルフ  
 ーとしての定評あり、トーナメント毎に  
 必ず何等賞かにありつゝて居る。「朝鮮  
 の國歌」は減多に聞かぬ秘藏の唄。カラ  
 タチの花」は藤原義江を凌ぐと自他共に  
 許す氏の得意のもので、氏の咽喉から輕  
 快に流れ出る「雨の降らぬに草牟田川濁  
 居る……」は氏の近邊を常に朗らかにして  
 有賀康人氏・第十四回(片倉製絲)  
 紅顔の美青年?で渡米して既に三十路  
 に入つた獨身者彼氏「日本式に數へてだ  
 よ」と強調してる)。去年から歸るくくと

迎も齒が立たない。ゴルフは日本では一般的ではないがこちらでは極く手軽であり人数も要せずパブリックコースが澤山あるから最もポピュラーなスポーツで老若男女何れもやつて居り、在留邦人にとつても經濟的であり亦保健上必要なスポーツである。従つて近代文明の粹を集めたる紐育に住む吾々を背白いスマートな紳士振りを想像されてる内地の諸兄には吾々のこの頑健振りには恐らく一驚の事と思ふ。

昨秋歐洲より歸朝の途御立寄になつた古谷先生を御迎へして座談會を開いた時

平常物に驚かれない事で有名な先生が、一驚された程である。

各方面に居る数々の珍談は美妓の侍らぬこちらに宴會でも大した淋しきを感じず水野さんの歌ひ納めを幾つも「聞き日本のレコードに故郷の山野に思を走らせお互に「日本はいやない」と強く感じつゝ一同和氣霽々裡に歡を盡して水野氏の御健康と御幸福とを祈つて散會したのには未だ冷々とした春の夜十一時過であつた。尙水野氏は四月廿日、桑港出帆の秩父丸にて歸郷の途に就く豫定なりとその後歐洲經由に突然變更、多分探讞すべしといふ夏頃日本に着かるゝであらう。

望月太一(絲七)	石井	公男(絲七)
磯部英一(絲七)	○太田	良信(絲七)
○野郎德人(絲七)	高麗	正高(絲七)
○咽合美義(絲七)	佐藤	東平(絲七)
小林清志(絲七)	宮島	靜三(絲六)
○福島喜藏(絲六)	桐原	達郎(絲六)
○鈴木玄九(絲六)	林	清市(絲九)
下村忠一郎(絲六)	○宮原	秀人(絲九)
林 秀門(絲九)	榎村	義一(絲九)
○大木定雄(絲九)	○丸山	勲(絲元)
山本金之助(絲元)	○松村	恵一(絲元)
○平野正夫(絲元)	宮下文四郎(絲元)	
長谷川恒三(絲元)	松浦	彰義(絲元)
北澤常雄(絲元)	白井	四良(絲元)
林英雄(絲元)	坂入	長治(絲元)
○牛草榮喜(絲元)	○太田	三郎(絲元)
有賀茂(絲元)	横川	豊彦(絲元)
○尾澤敏男(絲元)	○滿澤	佐敏(絲元)
○猪原良芳(絲元)	○山口悠紀男(絲元)	
飯田儀作(紡二)	野口新太郎(紡二)	
村島徹(紡二)	香山	清利(紡三)
宮本靜雄(紡三)	阿 豊治郎(紡五)	
橋本和夫(紡六)	市村	信雄(紡七)
北原基(紡八)	佐久間幸一(紡十)	
小林忠十郎(紡十)	鈴木	一郎(紡十)
村橋 決(紡十)		
終身會費納欠者	岡部	彌市(絲三)
岡部 康之(蠶四)		
原田 侃(絲五)	村橋	決(紡十四)
未納會費金四圓也		
千由會規則第九條第一項中第三號ニヨル		
未納入會費納入者		
金五圓也		
大井 學(蠶四)	小山	二郎(蠶六)
小林 勲(蠶六)	野本治兵衛(蠶六)	
橫山康一郎(蠶六)	都筑	賢吉(絲四)
石坂虎治郎(絲五)	佐藤	種雄(絲六)
原 英三(絲六)	手塚	雄一(絲六)
入會金納入者		
金拾圓也	宮島	四郎(絲元)
金五圓也	清水	傳(蠶元)
渡邊 善次(蠶元)	土屋	勉(紡十五)

の名手、洋樂に詳しく名レコードの蒐集に餘念がない。色の黒い方での第一人者だが仲々の親切者。何時もビツタとしたスタイルが好きで左も相當に利く。殊に洋酒に於て然り。近く歸朝の豫定。

若林清氏―第十五回(三井物産)

支那から紐育へ來たその道の達者な人外柔内硬のタイプでいつもきちんとした禮儀正しいジェントルマン、口に言ふ前に實行第一を旨とし社交振りは仲々堂に入つたもの。最近ゴルフがよく當るらしい。飲む方も相當に強い。

矢野榮輝氏―第十七回(片倉製絲)

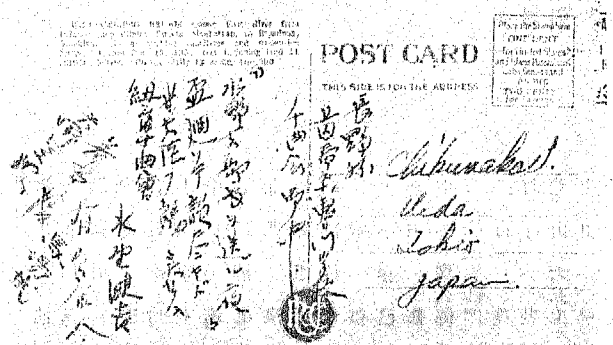
渡米早々カップを獲得した名ゴルフア―。最近ムービーキメラに興味をもつてゴルフと兩方掛持で歩き廻つてゐる。宴酣になると必ず煩被りて飛び出す氏の嫺やかな節は伊那節と共に好評啖々。チビリ／＼と傾く盃は相手さへあれば何時迄も續く相當のものらしい。

馬場武氏―第十八回(片倉製絲)

以上の古強者に伍して最新參者、日本からの洋服がダブ／＼で困りつゝ着て居る。新參者丈に失敗談が澤山あるらしい。最も運動量の多いゴルフア―。ウルサイ紐育でも床に入れば直ぐ眠れると云ふ丈に相當に太い神經の持主。吞めばず／＼赤くなるも環境に銀へられて段々強くなつて來たらしい。

各方面話は自然と學校の事、廿五週年は盛大なりし由、校長先生は益々御元氣の由、蒲生先生が新博士になられた、早川先生が群馬社の社長に、今度の海外研究に來られる先生は？等々クラスの酒も空の時が屢々。黒く焼けた顔は赤黒く輝き何れも米大陸を吞んで了つた様な氣焔が吐かれた。

紐育は金と女の國で、吾々日本人には



諏訪通信

市制を布いた岡谷の祝賀が大日本蠶絲會總會と一緒にたつたために、當地稀に見る賑ひを呈した。五月二十三日から二十五日の三日間は全く市の誕生を祝し其の前途の多幸を祈るかに見えた。晝は旗の海、夜は灯の海、其の間を小止みなく練り廻る幾多の出し物にて、狭い街故に通行も出来ぬ雑沓の連続であつた。更に特記すべきは開院宮殿下を迎へ奉り市民はもとより郡民一同其の光榮に浴し感激に浸ることが出来た。尙又絹業展覽會の開催により絲の都の名に相應しく蠶絲業方面の認識を一般に深く與へたことは何よりの收穫であつたと思はれる。

若く卒業生の返書

石倉新十郎

拜復貴書拜見、御厚意有難く存上候。世情は眞に仰せの通り萬々推察いたし候景氣不景氣は世の流れ、どこからともなく流れ来り、又どう云ふ譯も知らず流れて去る。其の結果は人間にあつて、破産したるもの、衰頹したものがあり、又財産を造つたもの、増殖したものがある。其所に悲觀樂觀があり、悲喜劇が現實に演ぜられるのである。

紹介ありて後三輪會長辭任に伴ふ後任選舉をなし今井副會長昇格當選、又副會長には鹽原君當選さる。次に宴に移り會長挨拶の後校長先生より主賓を代表されて御挨拶に兼ねて訓示を頂き非常時に處する吾等の最も感銘するところであつた。久し振りにて父母の許に歸りたる心持にて諸先生を中心として、昔を語り現在を話し合ひ、酒量増すに及び或は踊り歌ひ或は吟じて特に高調に達するや一同記念の撮影をなし童顔と美妓の得難き情景も瞬時に消え去り、爆笑と明朗は際限なく續く。やがて校長先生の万歳に次ぐ支會の万歳を唱和し名残り惜しくも幕を閉づ。

二十三日は三先生を支會有志にて蠶絲學校、増澤商店に御案内し、特に蠶絲學校に於ては、若人の胸に深き感激と勇氣を與ふる御講演を戴き、一同深く感謝に満ちた。午後二時三先生を御送り致し益々御健勝の程を心より祈る。尙終りに御參會の客員各位に對し御禮申

上ぐると同時に不行届きの點を謝し益々御健勝を祈る次第である。更に參會者名を記し掲載す。

主賓 針塚校長先生、遠藤先生、林先生  
賓 横濱 宮入君  
上田 齋藤君、永田君、猪坂君  
篠ノ井 依田君  
松本 久保田君、野尻君  
支會員 今井君、鹽原君、中川君、石塚君、石川君、本山君、原田君、金野君、手塚君、村田君、御子柴君、土岐君、渡邊君、宮坂君、島倉(惣)君、關君、小澤君、角替君、小口(兼)君、後明君、渡邊(綱)君、宮坂(三)君、横山君、山浦君、香掛君、秋山君

と響けど其れは音楽ならぬ静物の聲である。巻尺とレベルとで丹念に其れを組立てる兄の頭脳には隙間がなく、筋肉の躍動はリズムを爲して居る。其の努力の著積は即ち完成の機軸である。

電動機一度唸りて動き出せば、見よ白雪の精細は整然として伸長せられ、繊細の糸は喜悦に舞ふ如く、飛出で木管に巻き附いて行く。其れはさながらステージの舞踏ではないか。

斯くして終に靜物化して生物となつたのである。其の生命は即ち兄の生命であり、糸は兄の生む愛兒である。其の市場に於ける價格は兄の自己慰安に對して問題ではない。糸は兄の見知らぬ誰かの衣服となるであらう。天の微笑は其所に含まれて居り、そして又表はれて居るのである。此所に氣附かぬ人達には眞の労働神聖の意義のわかる筈がない。兄の流す汗は世の感謝の涙であり、兄よりすれば世を救ふ深き情の涙である。我が蠶專校歌は之を讃美して居る。噫壯なる哉吾が蠶專校兒、夫れ勇闘せよ、そしてまた自愛せよ。不 一

ハ、役員改選の件

正、副會長は原田會長指名に依る詮考委員(野崎、小平、永井、南澤、小林の諸氏)の嚴密の上、又代議員及幹事は新會長の指名に依り左の如く決定せり。

會長 上野榮仁  
副會長 高島秀男  
代議員 田中福雄、久保田昌人、南澤 清  
幹事 宮澤勇、永井勝未、菅澤隆三、田中福雄、栗原章、中島退

以上にて議事終了、新會長上野榮仁氏より就任挨拶あり。終つて蠶絲會館食堂に於て盛大なる晩餐會を舉行新入會員の挨拶、自己紹介等を経て午後七時盛會裡に散會せり。

(中島記)

計報

弔慰金報告

故林太郎氏弔慰金第三回

金貳圓也 原田 親雄 中村治三郎  
金貳圓也 齊 飯田 儀作 高品喜一郎  
金壹圓也 町田 志敏 中野 六郎  
島倉惣次郎 坂入 長治 佐藤 一  
渡野 文雄 石原滿洲夫 三輪 貞徳  
堀 忠太郎

右合計金拾九圓也  
累計金六拾四圓五拾錢也  
總累計金參百貳拾參五拾錢也  
故權九氏弔慰金第三回

金貳圓也 依田寛之助  
金壹圓也 渡部 齊  
右合計金參圓也  
累計金拾五圓也

那是製絲株式會社  
よりの禮狀

謹啓 當會社前取締役社長故遠藤三郎兵衛殿逝去に際しては早速御町重なる御弔慰を賜り御厚情の段誠に難有奉深謝候乍畧儀茲に謹而御厚禮申上候 頓首  
昭和十一年六月六日

京都府綾部町 那是製絲株式會社

千曲會御中

前東京高等蠶絲學校校長 御遺族よりの禮狀

肅啓 父岩次郎永眠の際には御鄭重なる御弔慰を辱ふし御厚情難有奉深謝候本日松岩院無外禪居居士

七七忌法要相替み供養のため東京市養育院、東京市託兒院並に西ヶ原同窓會に若干金員を寄附仕り追善の意を表すること

に致し候間御諒承被成下度候先は忌明に際し乍略儀以書中御厚情御謝旁右御挨拶申上度如斯に御座候 敬具  
昭和十一年六月十七日

千曲會御中 嗣子 本多 正雄

故高山裕氏御遺族よりの禮狀

拜復 此の度は厚き御配慮誠にありがたう御座いました。本日弔慰金到着いたしました。早速靈前に供へつゝ皆々様の御懇情を身に泌みて喜しく存じました。厚く御禮申上げる次第で御座います。先は一筆御禮迄に申添へました。

千曲會御中 高山 より子

那是製絲株式會社  
御遺族よりの禮狀

肅啓 梅雨の候益々御清祥之段奉賀候陳者先般父三郎兵衛永眠の際には御懇篤なる御弔慰を蒙り致し御厚情難有奉深謝候御蔭を以て此度無滞忌明相替候に就ては拜趨の上親しく御禮可申上等の處乍略儀以書中御挨拶申上度如斯に御座候 拜具

追而忌明の印として御返禮可仕管の處乍勝手故人生前の關係先公共諸團體に寄附仕り供養と致候間何卒御諒承被成下度候  
昭和十一年六月三十日  
京都府河原郡那志賀鄉村 千曲會御中 遠藤 謙輔



會員動靜 (七月五日現在)

坂田 正登(蠶八)	(勤)滿洲國奉天、省立奉天農科高級中學校
後藤 仙彌(蠶九)	(勤)朝鮮平安南道順川面、平安南道原蠶種製造所(勤務先所在地變更)
宮澤 勇(蠶一三)	(勤)從前通り(住)東京市世田谷區世田谷二ノ一二九八
池内 眞吾(蠶一九)	(勤)從前通り(住)植科郡屋代町、唐木田藤三郎方
千村 敏三(蠶一九)	市川ト改姓
杉浦 卓三(蠶二〇)	(自警)愛知縣碧海郡刈谷町下町一九、杉浦蠶種製造場、電話刈谷五五
羽吉 日正雄(蠶二二)	(勤)朝鮮平安北道寧邊郡寧邊面、平安北道蠶業取締所寧邊支所
吉池 權五郎(蠶二三)	(勤)上田市、長野縣蠶業取締所上田支所
中村 壽一郎(蠶二三)	(住)小縣郡依田村生田三八七六
川中 貞次(蠶二三)	(勤)福岡市外箱崎、福岡縣蠶業取締所
手塚 秀太郎(蠶二五)	(勤)兵庫縣蠶業試驗場姫路桑園
味澤 泰造(蠶二五)	(住)兵庫縣飾磨郡飾磨町清水八四
石塚 浪之助(蠶二七)	(勤)群馬縣馬場郡室田町、確水社室田製絲工場
大谷 勇(蠶二九)	(住)高崎市並坂町一四一
新庄 哲二郎(蠶三〇)	(勤)東京市京橋區西八丁堀三丁目七番地ノ一三、日本製絲業研究會、生絲ノ國社營業所、生絲ノ國社印刷部、電話京橋(五)一二四八
合田 信一(蠶三一)	(住)埼玉縣大宮町高鼻、電話大宮五六
稻田 實(蠶三二)	(勤)下伊那郡下條村、天龍社河南工場
半田 辰猪(蠶三三)	(勤)更級郡更級村、更級郵便局
瀧澤 啓四郎(蠶三七)	(住)更級郡更級村大字羽尾一八六〇
宮島 靜三(蠶三八)	(勤)栃木縣那須郡小山町、栃木縣蠶業取締所(住)小山町稻葉郷
小關 悅郎(蠶三九)	(勤)新潟縣村松町、片倉越後製絲株式會社
林 清市(蠶一九)	(勤)北佐久郡小諸町、長野縣蠶業取締所小諸支所
林 宇一(蠶一九)	(住)北佐久郡小諸町新屋町
白井 美明(蠶二〇)	(勤)新潟縣小出町、新潟縣蠶業取締所
武者 忠彦(蠶二二)	(勤)東京市京橋區京橋三丁目片倉ビル、片倉製絲紡績株式會社(住)東京市世田谷區世田谷三ノ二四一四
碓氷 茂(蠶三三)	(勤)從前通り(住)横濱市伊勢町縣廳官舎九二番
木田 圭吉(蠶六)	(勤)栃木縣下都賀郡小山町、昭榮製絲小山試驗場(六月號時報訂正)
山下 昂(蠶八)	(勤)熊谷市、片倉熊谷製絲所(住)熊谷市熊谷一五八ノ三
山本 七郎(蠶一四)	(勤)東京市市旗ヶ崎、鳥取縣蠶業取締所
野尻 巴(蠶一四)	(勤)岡谷市、長野縣蠶業取締所岡谷支所
藤松 利八(蠶一五)	(勤)北佐久郡小諸町、長野縣蠶業取締所小諸支所
掛川 しづ(蠶四)	(勤)東京市麴町區有樂町一ノ七蠶絲會館内、保證責任全國乾繭販賣購買組合聯合會、電九之内(二三)一七二六
三浦 満(蠶四)	(勤)金澤市殿町、石川縣生絲檢査所
小林 つね(蠶四)	(勤)京都市左京區高野下開町、鐘淵紡績株式會社京都支店
	(勤)豊橋市兵部第十八聯隊第一機關銃中隊
	(勤)從前通り(住)東京市本所區業平橋三丁目六ノ一
	(勤)福島市太田町、昭榮製絲福島工場(訂正)
	(勤)ナシ(住)上田市常入町
	宮本ト改姓(勤)ナシ(住)神戸市兵庫區港町一ノ四七三

署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 針塚長太郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 井上柳梧	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 和仙太郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 石倉新十郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 遠藤保太郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 佐藤利一	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 原田親雄	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 岡德治郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 佐藤春太郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 古谷榮藏	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 金子英雄	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 清水寛孝	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 谷弘	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 目崎三郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 廣川正治	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林清丸	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 志田敬夫	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 内藤榮吉	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 依田啓藏	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 都筑貞吉	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 和田主計	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 清水運策	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 春原良太郎
--	---------------------------------------	---------------------------------------	--	--	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--



暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 倉澤恒夫	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 濱村一彦	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 町田博	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 手塚達郎	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林敏	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 坂口育三	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 關博夫	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 林貞三
暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 窪田潤	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 荻原清治	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 萱野恒	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 松浦彰義	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 片岡金一	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 野口新太郎	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小松忠一郎	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 櫻井隆夫
暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 高橋眞澄	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 湯原淳	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 宮下丈夫	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林尙一	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林尙一	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林尙一	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林尙一	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林尙一

編輯室より

△暑中御見舞申上げます。時報に對して  
毎々格別の御高配を賜りまして有難う御  
座いました。今後何かと御援助御鞭撻  
を賜り御寄稿御廣告等としく下さる事  
をお願い致します。  
昭和十一年盛夏

千曲時報編輯部

香山 清和  
野 誠一  
平 孝平  
尾 孝平  
細 川 豊

△丁度梅雨の時期に日照りが続き真夏の  
様な暑さだったので今年からはつゆで終  
るのかと思つたら今頃になつて毎日雨が  
降り續いて涼しくなつて來た。そのせい  
か今年の暑中見舞集は申込者が少な  
かつた。編輯室は豫算大見込違ひで背息吐  
息の有様である。然してこの涼しきにも  
拘らず御申込下さつた諸氏に本欄を通じ  
て厚く御禮を申上げる次第である。

投稿規定

△馬場氏の「水野支會長を送るの記」も丹  
綾生氏の「信濃路に於ける最後の遺蹟」も  
原稿紙の一行の字数が多過ぎた。今後  
一行十八字に書かれん事を望む。  
△今月號から日東製絲、溫電の廣告が姿  
を消した。之は非常な収入減を齎すもの  
である。編輯室の勝手元は非常な淋し  
さを感じる。それで會員諸氏にお願ひがあ  
る。會員諸氏自身に於て利用せらるゝ事  
と最寄の商店、工場等の廣告御世話下  
らん事をお願いする。會員諸氏に未着が  
あれば必ず云ふて來る状態であるから關  
心も相當大いらいしその上發行部數  
が二千部にも達するとなれば廣告價値は  
決して少くないと思ふから。

- 一、内容は不問、平易なる學術研究、會  
員消息に關する物は特に歡迎。取捨  
は當方に一任せられたい。編輯の都  
合に依り全部又は一部來月廻しとな  
る事がある。
- 一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致  
しません。
- 一、締切は毎月六日限、特に一月號は一  
日發行とする爲め二十日限とする。
- 一、原稿は開封し二錢切手(第四種百十  
瓦迄)を貼布して送附し通信文があ  
つたら別に葉書等にて通知されるが  
得策である。
- 一、必ず原稿紙を使用し明瞭にお書き下  
さい。又句讀點を必ず施して一字分  
の間隔を置いて下さい。
- 一、匿名で掲載希望の場合も編輯部丈へ  
は姓名をお明し下さい。然らざる時  
は遺憾乍ら掲載を見合せる場合があ  
ります。
- 一、圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸  
以内とし必ず白紙に墨書して下さい  
原稿紙は御請求次第送附す。普通の  
原稿紙を使用する場合は一行十八字  
文書込まれ度い。

廣告規定

寸法	期間	一月	六月	一年
一頁	一頁	三〇〇〇	六〇〇〇	一〇〇〇〇
1/2頁	1/2頁	一五〇〇	三〇〇〇	五〇〇〇
1/4頁	1/4頁	七五〇	一五〇〇	二五〇〇
1/8頁	1/8頁	三七五	七五〇	一二五〇
1/16頁	1/16頁	一八七	三七五	六二五
1/25頁	1/25頁	一〇〇	二〇〇	三〇〇

但し本會員は七掛とす。

上田市海野町  
河合藥品舖  
電話二一七番  
振替長野七八四番

昭和十一年度製造原蠶種	普通蠶種
國蠶日八號 佛純白蘭 國蠶歐十六號 國蠶支十七號 國蠶日一一號 國蠶支一〇六號	國蠶歐十九號 分離白一號 國蠶支十六號 龍華 國蠶支一〇七號 江
秋 ×國蠶日一一號 ×國蠶支一〇七號 春 ×國蠶歐十九號 ×國蠶支十七號 白 ×國蠶日一一號 ×國蠶支十七號 ×分離白一號 ×國蠶支十七號 黃 ×國蠶歐十六號 ×國蠶支十六號 ×國蠶支一〇七號	×分離白一號 ×國蠶支一〇七號 ×國蠶日八號 ×國蠶支十七號 ×國蠶歐十六號 ×國蠶支一〇七號
廣島縣御調郡奥村綾目八兵衛 蠶種業 小川保 振替(廣島)二四六番 振替(大阪)三三三番	